

沖 縄 タ イ ム ス

家族の対処法を紹介



大田房子さん



古川房予さん

アルコール依存症講演会が15日、県南部福祉保健所で開かれ、琉球病院アルコール・薬物依存症専門病棟看護師長の古川房予さん、豊見城断酒家族会会長の大田房子さんが、家族の関わり方について説いた。85人が熱心に耳を傾けた。

古川さんは、依存症本人が自ら進んで受診することはほとんどなく、まずは家族が病院に相談に行くことが大事だと説いた。

アルコール依存症講演会

「次にお酒を飲んだら離婚」など言葉で駆け引きをしない、子どもには「(約束を守らないなどの行動が)依存症という病気のため」と教える—などの対処法を紹介した。

依存症の夫を持つ大田さんは、家族会への参加をきっかけに病気に関する知識を学び、自身を犠牲にして尻ぬぐいする「共依存」から脱したと振り返った。家族会や病院で聞かれている家族教室で体験者の話を聞き、自身の苦しみを語ることで「回復の道は開ける」と訴えた。